

第 64 回神奈川建築コンクール 住宅部門最優秀作品選評
「鎌倉大町の住宅」

審査委員 田井 勝馬

至ってシンプルな住宅である。鎌倉の谷戸に建つ夫婦と 3 人の女の子のための住まい。これからの暮らしの変化や住まいに関わる様々なモノや事柄を一つ一つ丁寧に整理し、読み解きまとめ上げたことによる丹精さがこの住宅の特徴である。そしてこの一連のプロセスにおいて設計された住宅は、シンプルではあるがとても力強く、豊かで心地よい住空間が創出されている。

3.5×4.5 間のリニアな平面には、プライベートとパブリックな空間が家具的フレームによって適度に分節されている。読書好きな家族の数千冊の本や旅先での食器や小物は、家族にとってのアーカイブ、暮らしに欠かせないアイテムである。それらの本棚や収納は、ここで暮らす人と物が心地よく共存する装置として扁平柱やツーバイ材によって家具的に構造化されたもので、空間全体に優しく機能している。また本棚は座屈止めとしても利用し、扁平柱のホゾ加工の接合等、シンプルな構成はディテールにも工夫が絶えない。断面的には 2 階建てではあるが、高さ 2m の窓開口と壁との絶妙なバランス配置があたかも 3 層構成にも思わせ、シンプルな断面形に抑揚が付与されている。1 階には擁壁をインテリアと見立てた窓開口、2 階には奥行きを感じさせる壁開口の工夫、上部には背後の雑木林を借景として取込む窓の配置等、自然豊かな風景の中で好きなものに囲まれ、家族それぞれが心地よい居場所を見つけ出す工夫が随所に見受けられる。

一方で、窓開口は熱負荷においてマイナス要因となりがちだが、周囲の環境を利用し、夏には雑木林が日除けとなり、冬には窓開口からの暖かい陽射しが室内環境を満たすことで、机上数値には表れない温熱環境が成立している。

鎌倉谷戸の風景とロケーションを理解し、若い家族の暮らしに歩み寄って様々な事象を丁寧に読み解きまとめ上げ、明快な構造形式にプランニングとディテールにも妥協を許さない執着心、そして環境にも配慮したこの住宅は最優秀としての評価に値する。